

## 大正期作家の読書遍歴に関する書誌的研究

（その５）——荷風の読書遍歴書誌 ５—— 一九とモリエール

志 保 田 務\*  
赤 瀬 雅 子\*\*

昭和九年から十二年にかけてのこの時期は、世界の趨勢をみても、この先、どうなっていくのか分からないが、とにかく暗い予感がするという時期であった。

荷風の筆は、こういう時に洩える。頹廢の作家、芸術至上主義の作家と謳われながら、彼が世の動きに極めて敏感な作家であり、あるいみで主知的な作家であった故であろう。

『断腸亭日乗』がこの時代を証言する。

作家荷風にとっては、彼自身がいつも述べていた「晩年」にその代表作を産み出す準備期間であった。

主としてフランスと日本の、ある一面で余人の追隨を許さない確かな作家の作品に、彼は目を通して行く。

まずフランシス・カルコと岡鬼太郎。二人はそれぞれパリのモンマルトルとモンパルナス、江戸の街々を確かな考証と眼力を持って描いた作家であり、とりわけ会話体の部分が他に抜きん出ている。これが荷風が学ぼうとした部分であろう。

そしてモリエールと十返舎一九。会話の妙はカルコ、鬼太郎と同じだが、その影響はさらに大きい。モリエールは不滅の人であり、一九は多才の器であった。荷風のユウモアは辛口で冷酷でありこの時期にも荷風が読んでいる斎藤緑雨を思わせるが、緑雨よりさらにスケールの大きいモリエールが彼の手本の第一であったと思われる。

### 凡 例

（詳細は本誌 Vol. 12 No. 3 所載）

#### I 拠点

『荷風全集』第1巻（1962年）～第28巻（1965年）、補巻・第29巻（1974年）岩波書店。

#### II 記載事項

##### 1. 読書関係事項

- .1 年月日：原則としてその対象作品名をなっている荷風の著作の初出の年月日。ただし脱稿の日付がふされそれが発表の日付よりも2年以上先立つものである場合は、脱稿の年月日を記載した。なお脱稿と発表の年月日に相当の間隔がある場合は、それぞれ注で脱稿または発表の日付を補った。

- .2 読書作品：荷風による記載の形に従って著者：作品名の順に示す。

##### 2. 典拠関係事項

- .1 巻・頁：当該読書作品を所載する上記『荷風全集』の巻次、頁。
- .2 読書作品を所載する荷風の著作のタイトル。岩波による編集タイトルの場合を含む。

3. 注：注は稿末にまとめた。荷風の文中からの抽出文には「 ”」（引用符）で囲んだ。

\*本学社会学部教授

\*\*本学経済学部教授

荷風の読書遍歴書誌(5)

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
9. 1. 21	邦枝完二「江戸役者」	21:307	断腸亭日記巻十八
9. 1. 10	「乗燭譚」	21:302	〃
9. 1. 13	成島柳北「古銭鑑識訓蒙」	21:303	〃
9. 1. 14	成島柳北「古銭鑑訓蒙」「明治新選泉譜」	25:292	書簡集
9. 1. 23	「仙家夢の記」	21:308	断腸亭日記巻十八
9. 1. 24	山下 重民編「東京近郊名所図会」 <sup>1)</sup>	21:308	〃
9. 1. 23	「横浜式鑑黄金の花」	21:308	〃
9. 1. 5	Duhamel, Georges 「Les club des Lyonnais」	21:301	〃
9. 1. 28	Pierre-Quin, <sup>3)</sup> Léon 「André Gide, sa vie, son oeuvre」	21:309	〃
9. 2. 25	新井聲風「すみだ川」	25:293	書簡集
9. 2. 9	「新趣味」 <sup>4)</sup>	21:315	断腸亭日記巻十八
9. 2. 20	橋本博編「維新日誌」第1期全10巻, 同 第2期	21:319	〃
9. 2. 11	ドオデ, アルフォンス 「タラスコン」 <sup>5)</sup>	21:316	〃
9. 2. 22	Billy, André 「La Littérature fran- çaise contemporaine」	21:320	〃
9. 2. 23	「Collection Armand Colin」 <sup>6)</sup>	21:321~322	〃
9. 2. 8	Maybon, Albert 「Le Japon d'aujourd' hui」 <sup>7)</sup>	21:315	〃
9. 3. 2	雑誌「河と海」 <sup>8)</sup>	21:328	〃
9. 3. 26	森於菟「解剖台に凭る」 <sup>9)</sup>	21:335	〃
9. 3. 9	カルコ, フランス 「La Rue」 <sup>10)</sup>	21:331	〃
9. 3. 16	Viollis, Andrée 「Le Japon et son Empire」	21:333	〃
9. 4. 18	新井白石「折焚柴之記」	21:339	〃
9. 4. 20	「大鏡」	21:341	〃
9. 4. 16	写本「温古新聞記」	21:339	〃
9. 4. 20	鴨長明「方丈記」	21:341	〃
9. 4. 26	「韓非子」が威強の章 <sup>11)</sup>	21:343	〃
9. 4. 24	幸田露伴「鼠頭魚鈎」	21:342	〃
9. 4. 15	写本「古今雑話」 <sup>12)</sup>	21:338	〃
9. 4. 20	「今昔物語」	21:341	〃
9. 5. 16	大田南畝「丙子掌記」	21:347	〃
9. 5. 20	蒲生重章「髻亭詩鈔」「髻亭文鈔」	21:348	〃
9. 5. 9	谷崎潤一郎「春琴抄」	21:345	〃
9. 5. 20	中村正直(敬宇)「敬宇詩集」	21:348	〃
9. 5. 22	水上瀧太郎「親馬鹿の話」	21:348	〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
9. 5. 8	「La Cinematographie」	21：345	断腸亭日記巻十八
9. 5. 8	「La Musique Contemporaine en France, 2vol.」	21：345	〃
9. 5. 8	Loti, P. 「Journal intime 2vol.」	21：345	〃
9. 6. 9	大田南畝「南畝手澤の詩集」	21：352	〃
9. 6. 30	大田南畝「一話一言」	21：359	〃
9. 6. 14	佐藤春夫「陣中の堅琴」 <sup>13)</sup>	21：354	〃
9. 6. 19	「南紀古典叢書柿園詠草，加納評平家集」	21：355	〃
9. 6. 28	カルコ「L'homme traqué」	21：358	〃
9. 7. 9	飯塚傳太郎「雑誌志豆波多」	21：360	〃
9. 7. 21	「市川左団次自伝」	21：365	〃
9. 7. 23	「市川左団次伝」	21：366	〃
9. 7. 11	恋川春町「古朽木」	21：361	〃
9. 7. 8	佐藤春夫「閑談半日」	21：360	〃
9. 7. 12	「上海活字本戒淫全書」	21：362	〃
9. 7. 17	森潤三郎「鷗外森林太郎」	21：364	〃
9. 7. 23	“日本の神話”	21：366	〃
9. 8. 10	雑誌「文学」（帚葉子上海発行） <sup>14)</sup>	21：371～372	〃
9. 8. 15	岡野知十「味餘」1巻	21：372	〃
9. 9. 15	「現代隨筆全集」（金星堂刊）	21：381	〃
9. 9. 22	「末摘花講義本」	25：295	書簡集
9. 9. 5	細田源吉「女性の敵」	21：380	断腸亭日記巻十八
9. 9. 9	「モリエール翻訳全集」（中央公論社）	21：380	〃
9. 9. 18	森鷗外「灰燼妄想」	21：382	〃
9. 9. 24	ロチ，ピエール「尺牘日誌集」	21：383	〃
9. 9. 24	Loti, Pierre 「Journal Intime」 <sup>15)</sup>	21：384	〃
9. 10. 20	新井聲風「木歩句集」	21：393	〃
9. 10. 29	伊藤武雄「読書会心抄」	21：396～397	〃
9. 10. 31	「弘文荘売書書目」	21：397	〃
9. 10. 5	笹野堅「室町時代小歌集」	21：386	〃
9. 10. 15	曹雪芹「紅樓夢」 <sup>16)</sup>	21：390	〃
9. 10. 2	「続歌舞伎年代記」	21：385	〃
<sup>18)</sup> 9. 10. 不(稿)	蘇東波の詩 <sup>17)</sup>	17：84	冬の蠅：十九の秋
9. 10. 27	「宛懲富保」稲光舎編	21：396	断腸亭日記巻十八
9. 10. 21	「仏蘭西里昂市街写真帖」	21：393	〃
<sup>18)</sup> 9. 10. 不(稿)	松崎慊堂の文集	17：32	冬の蠅：井戸の水
<sup>18)</sup> 9. 10. 不(稿)	松林伯圓「安政三組盃」	17：36	〃：〃
9. 10. 9	雑誌「大和」	21：388	断腸亭日記巻十八
<sup>18)</sup> 9. 10. 不	葉松石「煮薬漫抄」	17：83	冬の蠅：十九の秋
<sup>18)</sup> 9. 10. 不(稿)	ミュッセ，アルフレッド ド「五月」 <sup>ニユイ・</sup>	17：35	〃：井戸の水

(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
	ド・メイ の夜」 「十二月の夜」 <sup>19)</sup>		
9. 10. 3	Prévost, Marcel 「La Nuit finira (夜 は盡るべし)」	21 : 386	断腸亭日記卷十八
9. 11. 20	宝井其角「其角七部集」	21 : 407	断腸亭日記卷第十八続
9. 11. 11	谷崎潤一郎「文章読本」	21 : 405	〃
9. 11. 23	月之舎秋里「天璋院殿尊高閣」	21 : 408	〃
9. 11. 10	日蓮「日蓮聖人全集」 <sup>20)</sup>	21 : 404	〃
9. 11. 1	服部撫松「東京新誌」	21 : 401	〃
9. 11. 10	鷺津毅堂「親燈餘影」	21 : 404	〃
9. 11. 8	カルコ, フランシス「モンマルトルと拉 典街の追憶記」 <sup>21)</sup>	21 : 404	〃
9. 11. 29	ジイド, アンドレ「日誌抄 (Pages du Journal 1926—1932)」	21 : 410	〃
9. 11. 26	Zicska, Antoine「現代の日本」	21 : 409	〃
9. 12. 21	市河三陽「東西両騎士」	21 : 415	〃
9. 12. 16	岡鬼太郎「江戸紫」	21 : 412	〃
9. 12. 22	近藤正一「名園五十種」	21 : 415	〃
9. 12. 7	樋口一葉「たけくらべ」「一葉全集」	21 : 411	〃
9. 12. 13	樋口一葉「日誌」	21 : 412	〃
9. 12. 7	広津柳浪「今戸心中」 <sup>22)</sup>	21 : 411	〃
10. 1. 5	大田蜀山人「壬申掌記」	21 : 423	断腸亭日記卷十九
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	大田南畝 <sup>23)</sup>	17 : 77	冬の蠅：十六七のころ
10. 1. 3	岡鬼太郎「もやひ傘」	25 : 297	書簡集
10. 1. 2	「汲古」第6巻	21 : 421	断腸亭日記卷十九
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	曲亭馬琴の小説	17 : 79	冬の蠅：十六七のころ
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	「国民の友」	17 : 78	〃 : 〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	呉承恩「西遊記」(帝国文庫)	17 : 75	〃 : 〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	山東京伝「京伝傑作集」	17 : 78	〃 : 〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	三遊亭円朝「牡丹灯籠」「塩原多助」	17 : 78	〃 : 〃
<sup>24)</sup> 10. 1. 不	「時事新報」(大正8年)	17 : 14	〃 : 枇杷の花
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	「しがらみ草紙」	17 : 28	〃 : 十六七のころ
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	十返舎一九「東海道中膝栗毛」 <sup>25)</sup>	26 : 78	〃 : 〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	「真書太閤記」(帝国文庫)	17 : 75	〃 : 〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	「水滸伝」(帝国文庫)	17 : 75	〃 : 〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	「太平記」	17 : 76	〃 : 〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	「太陽」第1号 <sup>26)</sup>	17 : 75	〃 : 〃
<sup>24)</sup> 10. 1. 不	角田音吉「水野越前守」(活版本)	17 : 14	〃 : 枇杷の花
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	中村敬宇(正直)「西国立志編」	17 : 80	〃 : 十六七のころ
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	「日本新聞」	17 : 80	〃 : 〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	巴里屋根裏の学者の英訳本	17 : 80	〃 : 〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	「文学界」	17：78	冬の蠅：十六七のころ
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	「文芸倶楽部」	17：78	〃：〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	正岡子規「俳諧大要」	17：80	〃：〃
10. 1. 25	釈山庭後「断腸亭記」	21：427	断腸亭日記巻十九
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	森鷗外「私が十四五歳の時」	17：81	冬の蠅：十六七のころ
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	羅貫中「演義三国志」(帝国文庫)	17：75	〃：〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	アービング「スケッチブック」	17：79	〃：〃
10. 1. 3	カルコ「Mémoire d'une autre vie」	21：422	断腸亭日記巻十九
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	ゴールドスミス, オリヴァー「ウェークフィールドの牧師」	17：80	冬の蠅：十六七のころ
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	スマイルズ, サミュエル「Selfhelp」 <sup>27)</sup>	17：80	〃：〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	ディケンズの小説	17：80	〃：〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	パアレ「万国史」	17：80	〃：〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	フランクリン, ベンジャミン「自叙伝」	17：80	〃：〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	マコーレー「クライブの傳」	17：80	〃：〃
<sup>18)</sup> 10. 1. 不(稿)	ラム, チャールズ「沙翁物語」	17：79	〃：〃
10. 1. 9	Sénéchal, Christian「Les grands courants de la littérature française contemporaine」	21：424	断腸亭日記巻十九
<sup>28)</sup> 10. 2. 不	泉鏡花「湯島詣」	17：91	冬の蠅：岡鬼太郎氏の花柳小説を読む
<sup>28)</sup> 10. 2. 不	岡鬼太郎「煙管物語」「四つの袖」「花柳巷談二筋道」「ひだり馬」「花紫」 <sup>29)</sup>	17：91	〃：〃
<sup>28)</sup> 10. 2. 不	尾崎紅葉「三人妻」	17：91	〃：〃
<sup>28)</sup> 10. 2. 2	斎藤緑雨「油地獄」「おぼろ夜」	17：91	〃：〃
<sup>28)</sup> 10. 2. 不	峨嵋の屋御室「通例人の一生」	17：91	〃：〃
10. 2. 12	杉山杉風「杉風の紀行別冊」	21：433	断腸亭日記巻十九
10. 2. 12	雪中庵雀志「江戸の俳諧」 <sup>30)</sup>	21：433	〃
10. 2. 8	宝井其角「花摘」	21：432	〃
10. 2. 2	「日本橋」(雑誌)	21：429	〃
10. 2. 8	松尾芭蕉「芭蕉全集」	21：432	〃
<sup>28)</sup> 10. 2. 不	森鷗外「そめちがへ」	17：91	冬の蠅：岡鬼太郎氏の花柳小説を読む
<sup>18)</sup> 10. 2. 不	ドーデ, アルフォンス <sup>31)</sup>	17：97	〃：〃
<sup>28)</sup> 10. 2. 不	ポルト・リッシュ, ジョルジュ ド <sup>32)</sup>	17：97	〃：〃
<sup>28)</sup> 10. 2. 不	モオパッサン, ギュイ ド <sup>19)</sup>	17：97	〃：〃
10. 3. 10	Nagai, Kafu「Le Jardin des pivouines」 <sup>33, 34)</sup>	21：439	断腸亭日記巻十九
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	泉鏡花「注文帳」	17：61	冬の蠅：里の今昔
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	江戸座の発句 <sup>35)</sup>	17：62	〃：〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	「江戸名所図会」	17：59	冬の蠅：元八まん
<sup>24)</sup> 10. 3. 不	岡野知十の句碑“名月や銭金いはぬ世が恋し”	17：50	〃：深川の散歩
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	「葛西志」	17：59	〃：元八まん
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	山東京伝の著作	17：59	〃：〃
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	「新小説」(雑誌) <sup>36)</sup>	17：69	〃：里の今昔
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	「二六新報」	17：69	〃：〃
<sup>24)</sup> 10. 3. 不	“橋台に菜の花さけり” <sup>37)</sup>	17：50	〃：深川の散歩
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	樋口一葉「たけくらべ」	17：61～62	〃：里の今昔
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	広津柳浪「今戸心中」	17：61～72	〃：〃
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	「風俗画報東京近郊名所図会」	17：59	〃：元八まん
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	深川夜鳥 <sup>38)</sup>	17：44	〃：深川の散歩
<sup>18)</sup> 10. 3. 不	“伏見に似たり桃の花” <sup>39)</sup>	17：50	〃：〃
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	靱山庭後	17：44	〃：〃
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	矢野龍溪「浮城物語」 <sup>40)</sup>	17：18	〃：きのふの湊
<sup>28)</sup> 10. 3. 不	アポリネール、ギョーム「坐せる女」	17：50	〃：深川の散歩
10. 3. 25	ヴァレリイ、ポール「モッシューテスト」	21：442	断腸亭日記巻十九
10. 3. 29	ハアン、ラフカディオ「佛蘭西訳本怪談」	21：443	〃
10. 3. 2	ルネエ、バサン「おだやかなる佛蘭西」	21：438	〃
10. 4. 27	岡鬼太郎「鬼言冗語」 <sup>41)</sup>	21：448	〃
10. 4. 25	「雑誌実話」	21：448	〃
10. 4. 不	宝井其角“憎まれてながらへる人冬の蠅” <sup>42)</sup>	17：3	冬の蠅：冬の蠅序
<sup>24)</sup> 10. 4. 不	深川夜鳥「日記」	17：47～48	〃：深川の散歩
<sup>24)</sup> 10. 4. 不	靱山庭後の句“心ありて庭に栽えけり断腸花”	17：5	〃：断腸花
10. 4. 17	ハーン、ラフカディオ「和訳ハアン全集」	21：447	断腸亭日記巻十九
10. 4. 9	ハーン、ラフカディオ「尺牘集」 <sup>43)</sup>	21：445	〃
10. 5. 21	雑誌「浮世絵志」	21：456	〃
10. 5. 22	雑誌「浮世絵志」	21：456～457	〃
10. 5. 14	岡鬼太郎「義太夫秘訣」	21：453	〃
10. 5. 14	「湖山消閑集」2巻	21：453	〃
10. 5. 14	「松靄遺稿」 <sup>44)</sup>	21：453	〃
10. 5. 14	「松靄山房遺稿」	21：453	〃
10. 5. 20	田口鼎軒「日本開化小史」	21：454	〃
10. 5. 20	雑誌「日本橋」第1号	21：454	〃
10. 5. 17	山田黄道「配偶」	21：453	〃
10. 5. 18	チャルー、ユドモン「Fumée dans la campagne (田園の畑)」	21：453	〃
10. 5. 25	チャルー、エドモンド「Soleil disparu」	21：457	〃
10. 5. 7	ハアン、ラフカディオ「神国日本」	21：450	〃

(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
10. 5. 25	ハーン, ラフカディオ「妖魔詩話」「尖塔登攀記」 <sup>45)</sup>	21: 457	断腸亭日記卷十九
10. 6. 13	観音瞻仰会「観音」(雑誌)	25: 299	書簡集
10. 6. 9	鈴木白藤「随筆夢蕉」	21: 461	断腸亭日記卷十九
10. 6. 4	谷崎潤一郎「摂陽随筆」	21: 460	〃
10. 6. 14	美都拍子	25: 509	書簡集
10. 6. 12	水上瀧太郎「倫動の宿」	21: 462	断腸亭日記卷十九
10. 6. 9	森銑三「近世文芸研究」	21: 461	〃
10. 6. 4	山田一夫「情死論」	21: 460	〃
10. 6. 5	サトウ, アーネスト「日本滞在記 (A diplomat in Japan)」	21: 460	〃
10. 6. 25	ハアン, ラフカディオ「熱帯紀聞(Contes des Tropiques)」	21: 464	〃
10. 6. 18	ハアン, ラフカディオ「ユーマ(Youma)」	21: 463	〃
10. 7. 15	邦枝完二「高橋阿伝」	21: 470	〃
10. 7. 7	「週刊朝日」	21: 467	〃
10. 7. 10	瀧亭鯉大「八笑人」 <sup>46)</sup>	21: 469	〃
10. 7. 2	趙家壁主編「良友文学叢書」 <sup>47)</sup>	21: 465~466	〃
10. 7. 26	「日本橋」第2号(雑誌)	21: 472	〃
10. 7. 8	広津柳浪「秋の色」 <sup>48)</sup>	21: 467	〃
10. 7. 3	「文芸倶楽部」明治30年前後のもの十余冊	21: 466	〃
10. 7. 6	「文芸倶楽部」明治31年7月号 <sup>49)</sup>	21: 467	〃
10. 7. 26	Nouët, Noël「絵本東京」	21: 472	〃
10. 8. 10	「新小説」(雑誌)	21: 479	〃
10. 8. 22	竹友藻風「時のながれに」	21: 483	〃
10. 8. 27	為永春水「梅見船」	21: 487	断腸亭日記卷第十九続
10. 8. 23	「能楽の友」(雑誌)	21: 483	断腸亭日記卷十九
10. 8. 22	深尾賛之丞「天の鍵」	21: 482	〃
10. 8. 23	松林伯円「伊香保土産」明治23年	21: 488	断腸亭日記卷第十九続
10. 8. 6	魯文手澤草稿「南陀迦紙乱」	21: 478	断腸亭日記卷十九
10. 8. 5	「パニチィフェーヤ」(月刊雑誌, 米国紐育市発行)	21: 473	〃
10. 9. 30	為永春水「風月花情春告鳥」	21: 496	断腸亭日記卷第十九続
10. 9. 3	「天保事々録」	21: 489	〃
10. 9. 20	「文芸春秋」(雑誌) <sup>50)</sup>	21: 493	〃
10. 9. 20	ケーベル「雑録和訳文」	21: 493	〃
10. 9. 10	ハリス(米国公使)「日本駐劄日誌」	21: 491	〃
10. 9. 26	ペルリ「東航誌」	21: 495	〃
10. 9. 27	Cosenza, Mario Emilio「The Complete Journal of Townsend Harris,	21: 495	〃

(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
	introduction and notes]		
10. 10. 29	「有喜世新聞」明治12年12月	21：507	断腸亭日記卷第十九続
10. 10. 3	「中央公論」明治42年11月 <sup>51)</sup>	21：497	〃
10. 10. 25	「頓智会雑誌」 <sup>52)</sup>	21：505	〃
10. 10. 30	東都惟草庵惟草輯「俳諧人名録」二編 <sup>53)</sup>	21：510	〃
10. 10. 15	「婦人公論」 <sup>54)</sup>	21：499	〃
10. 10. 3	森鷗外論(「中央公論」明治42年9月号)	21：497	〃
10. 10. 9	雑誌「笑」	21：499	〃
10. 10. 24	Fraser, Huch「A Diplomatist's wife in Japan (Letters from Home to Home)」 <sup>55)</sup>	21：503	〃
10. 10. 23	Roussin, Alfred「Une Campagne sur les côtes du Japon」 <sup>56)</sup>	21：502	〃
10. 11. 3	井上啞々「道楽」 <sup>57)</sup>	21：512	〃
10. 11. 12	「英文不夜城」	21：516	〃
10. 11. 不	川尻清潭「名優芸談」	26：488	序跋其他：川尻清潭著名優芸談 序
10. 11. 12	笹野堅「室町時代短篇集」	21：516	断腸亭日記卷第十九続
10. 11. 8	佐藤春夫「我が成長」	21：514～515	〃
10. 11. 3	「三田文学」(雑誌)	25：299	書簡集
10. 11. 23	老鼠堂永機の日誌凡十卷	21：518	断腸亭日記卷第十九続
10. 11. 12	エルジン, ロード「支那日本紀事」(安政 四五六年間)	21：516	〃
10. 11. 20	Elgin, Lord「Narrative of the Earl of Elgin's Mission to China and Japan in the years 1857, '58, '59」 <sup>58)</sup>	21：517	〃
10. 11. 11	Sladen, Douglas「The Japs at Home」 <sup>59)</sup>	21：516	〃
10. 12. 18	「浅草観音縁記」(土佐浄瑠璃本)	21：526	〃
10. 12. 14	「岩倉全権大使米欧回覧実記」 <sup>60)</sup>	21：524	〃
10. 12. 18	「色竹集」(土佐浄瑠璃集)	21：527	〃
10. 12. 4	「ヴェルレーン全集」(原本) <sup>61)</sup>	21：520	〃
10. 12. 18	「絵表帟附河東節正本」	21：527	〃
10. 12. 6	岡不崩「あさかほ流行史」	21：520	〃
10. 12. 23	岡不崩「萬葉集草木考」	21：528	〃
10. 12. 4	雑誌「改造」 <sup>62)</sup>	21：520	〃
10. 12. 12	邦枝完二「振袖役者」	21：525	〃
10. 12. 18	「現在松風」(土佐浄瑠璃本)	21：527	〃
10. 12. 18	「源氏六条通」(土佐浄瑠璃本)	21：527	〃
10. 12. 18	「三世二河白道」(土佐浄瑠璃本)	21：527	〃



(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
10. 12. 18	「塩屋文正物語」(土佐浄瑠璃本)	21：526	断腸亭日記卷第十九続
10. 12. 5	「世界紀行雑誌」合本 <sup>63)</sup>	21：520	〃
10. 12. 18	「説経ふじみときは」(土佐浄瑠璃本)	21：527	〃
10. 12. 12	谷崎潤一郎「武州公秘話」	21：524	〃
10. 12. 4	「中央公論」 <sup>64)</sup>	21：520	〃
10. 12. 18	「中将姫」(土佐浄瑠璃本)	21：527	〃
10. 12. 10	鶴岡蘆水「隅田川兩岸一覽」上・下	21：522	〃
10. 12. 18	「定家」(土佐浄瑠璃本)	21：527	〃
10. 12. 18	「ときは御前道行」(土佐浄瑠璃本)	21：526	〃
10. 12. 18	「土佐日記」(土佐浄瑠璃本)	21：526	〃
10. 12. 18	「名古屋山三郎」(土佐浄瑠璃本)	21：526	〃
10. 12. 18	「鳩鳥後撰幸葉集大全」	21：527	〃
10. 12. 9	「ツールドモンド」 <sup>65)</sup>	21：522	〃
10. 12. 18	「風流和田酒盛」(土佐浄瑠璃本)	21：526	〃
10. 12. 19	松本泰「炉辺樹蔭」	21：527	〃
10. 12. 30	森銑三「古賀精里夫人」	21：529	〃
10. 12. 3	「和紙銅版東京名所八葉」	21：519～520	〃
10. 12. 22	イェヴネル「北米日本支那漫遊記」 <sup>66)</sup>	21：528	〃
10. 12. 18	ビゴオ、ジョルジ「日本風俗銅版画帖」 <sup>67)</sup>	21：526	〃
10. 12. 5	「Le Tour du monde, Nouveau journal des voyages」Librairie Hachette et C <sup>ie</sup> 1868	21：520	〃
11. 不	森鷗外「伊沢蘭軒」	15：241～246	鷗外先生：森先生の伊沢蘭軒を読む
11. 1. 1	Alcock, Rutherford「The Capital of the Tycoon: Anarrative of a three year's residence in Japan」 <sup>68)</sup>	22：4～5	断腸亭日記卷二十
11. 2. 23	一竿斎宝洲「脚本神経開化怪談」 <sup>69)</sup>	22：28	〃
11. 2. 13	小堀杏奴「晩年の父」	22：22	〃
11. 2. 14	小堀杏奴「晩年の父」	25：201	書簡集
11. 2. 19	萩原乙彦「東京繁昌記」	22：24	断腸亭日記卷二十
11. 2. 16	森銑三「新橋の狸先生」	22：23	〃
11. 2. 16	森銑三「了然尼事蹟考」	22：23	〃
11. 2. 13	ビゴオの絵本及銅版画 <sup>70)</sup>	22：22	〃
11. 2. 28	マルクオルラン「女騎士エルザ」 <sup>ガバリエール</sup>	22：31	〃
11. 2. 11	ワグマン「日本風俗漫画」	20：22	〃
11. 2. 18	「ツール・ド・モンド・ペルス (世界旅行志波路斯行)」 <sup>71)</sup>	22：23	〃
11. 3. 27	「週刊朝日」	22：37	〃
11. 3. 25	昇斎「東京三十六景 (折本)」	22：37	〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
11. 3. 1	林述斎「谷口樵唱」	22：32	断腸亭日記巻二十
11. 3. 19	松尾芭蕉「芭蕉全集」	22：36	〃
11. 3. 28	イバネス、ブラスコ「女の敵 (Ennemie de la Famme)」	22：37	〃
11. 3. 10	ベレソール、アンドレエ「日本日夜の記 (André Bellessort: Les Journées et les nuits Japonaises (1926))」	22：33	〃
11. 4. 26	「芝居絵本書目」	25：302	書簡集
11. 4. 26	「芝居絵本目録」	22：55	断腸亭日記巻第二十続
11. 4. 4	安井息軒「北漣日抄」二巻	22：40	断腸亭日記巻二十
11. 4. 26	「吉原書目」	25：302	書簡集
11. 4. 3	「吉原文書目録」	22：40	断腸亭日記巻二十
11. 5. 16	「荷風読本」	22：60	断腸亭日記巻第二十続
11. 5. 12	「サマンの傳」 <sup>72)</sup>	22：59	〃
11. 5. 20	信夫恕軒の文集	22：64	〃
11. 5. 不	日高基裕「釣する心」	26：490	序跋其他：日高基裕著釣する心 序
11. 5. 12	日高筭阜「釣の心」	22：60	断腸亭日記巻第二十続
11. 5. 23	ボアレブ「Le Bonheur à cinq sous」	22：65	〃
<sup>73)</sup> 11. 6. 不	西行	17：104	冬の蠅：鐘の声
<sup>73)</sup> 11. 6. 不	松尾芭蕉	17：104	〃：〃
<sup>74)</sup> 11. 6. 不	松尾芭蕉「秋に添って行ばや末は小松川」	17：107	〃：放水路
11. 6. 不	森鷗外「鷗外全集」	15：239	鷗外先生：鷗外全集を読む
11. 6. 28	森鷗外「堺事件」	22：72	断腸亭日記巻第二十続
<sup>73)</sup> 11. 6. 不	ハーン、ラフカディオ <sup>75)</sup>	17：104	冬の蠅：鐘の声
<sup>73)</sup> 11. 6. 不	ロチ、ピエール <sup>75)</sup>	27：104	〃：〃
11. 6. 1	Arnold, Edwin「Japonica」 <sup>76)</sup>	22：68	断腸亭日記巻第二十続
11. 6. 1	Arnold, Edwin「Seas and Lands」 <sup>77)</sup>	22：68	〃
11. 6. 1	Challaye, Félicien「Le Japon illustre」 <sup>78)</sup>	22：67	〃
11. 7. 19	「カフェー営業取締規則書」	22：77	〃
11. 7. 16	達磨屋活東子編「燕石十種」	22：77	〃
11. 7. 2	雑誌「文芸春秋」昭和4年4月号 <sup>79)</sup>	22：77	〃
11. 7. 6	森鷗外「渋江抽斎の傳」	22：75	〃
11. 8. 21	畑銀雞「天の浮橋」4巻 <sup>80)</sup>	22：82	〃
11. 8. 21	畑銀雞「雑記」	22：83	〃
11. 8. 25	宮武外骨編著「明治奇聞」	22：83	〃
11. 8. 29	「オール演芸」「星雲」「観音」「文芸時報」「海」「俳句新聞」「文芸懇話会」「劇と評論」「日本とアメリカ」「日本	22：84～85	〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
	記録」「演劇新論」「文芸汎論」「禿鷹」 「学燈」「文学読本」「文学案内」「人 民文庫」「中央公論」「東陽」「改造」 「日曆」「日本評論」「阿房」 <sup>81)</sup>		
11. 8. 24	森鷗外「本家分家」	22：83	断腸亭日記巻第二十続
11. 9. 11	雑誌「さみだれ」 <sup>82)</sup>	22：88	〃
11. 9. 5	高見氏(荷風叔父阪本三蕨の庶子)「起承 転々」 <sup>83)</sup>	22：87	〃
11. 9. 27	藤森弘庵の伝(雑誌傳記所載)	22：95	〃
11. 9. 10	「鷗外全集」 <sup>84)</sup>	22：90	〃
11. 9. 2	Chéreau, Gaston「Le Monstre」	22：86	〃
11. 9. 2	Galtier-Boissiere, Jean「La Bonne Vie」	22：86	〃
11. 10. 23	曲山人著, 松亭金水補作「娘太平記操 早引」	22：100	〃
11. 10. 21	「写真画報」	22：99	〃
11. 10. 16	高見順「女體」	22：99	〃
11. 10. 23	為永春水「花名所懷中曆」	22：100	〃
11. 10. 23	為永春雅「春色雪之梅」	22：100	〃
11. 11. 11	一筆庵可候「朧月花之朶」	22：107～108	〃
11. 11. 11	梅園路彦「艶色競」 いろいろ	22：〃	〃
11. 11. 1	教訓亭主人訂著, 梅亭金鷺編「お八重幸 次郎花鳥風月」	22：101～102	〃
11. 11. 1	曲山人「娘節用」	22：〃	〃
11. 11. 2	紅葉文庫	25：303	書簡集
11. 11. 1	三亭春馬「春秋二季種」 ふたきぐさ	22：101～102	断腸亭日記巻第二十続
11. 11. 13	菅竹浦「狂歌書目集成」	22：108	〃
11. 11. 13	菅竹浦「近世狂歌史」	22：108	〃
11. 11. 1	楚満人「菊廼井双帗」	22：101～102	〃
11. 11. 11	為永春水「祝井風呂時雨傘」「以登家奈幾」	22：107～108	〃
11. 11. 1	為永春水「處女大幸喜」 おとめ「貞操婦女八賢誌」	22：101～102	〃
11. 11. 25	為永春水「菊の井雙紙」	22：112	〃
11. 11. 29	為永春水「中本梅の春」	22：113	〃
11. 11. 21	為永春水鯉丈「明烏後正夢」	22：111	〃
11. 11. 11	為永春雅「露月奇縁妹背鳥」	22：107～108	〃
11. 11. 1	松亭金水「四時遊覧花筐」 はながたみ「春宵多佳根廼 花」「娛色の糸」「未つむ花」	22：101～102	〃
11. 11. 1	まるやかく子「秋雨夜話」	22：101～102	〃
11. 11. 8	矢田挿雲「太閤記」	22：106	〃
11. 11. 11	幽篁庵「教草操車」	22：107～108	〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
11. 11. 4	メーボン、アルペール「今日の日本」 <sup>85)</sup> <small>ジャポンドジュールディユ</small>	22：103	断腸亭日記巻第二十続
11. 12. 1	朧月亭有人「春色戀の染分解」 <small>そめわけ</small>	22：103	〃
11. 12. 27	山々亭有人「おくみ惣次郎春色江戸紫」	22：120～121	〃
11. 12. 27	楚満人(春水)「三日月阿専」	22：〃	〃
11. 12. 27	谷峨「教訓二筋道」	22：〃	〃
11. 12. 1	為永春水「清談松の調」「其小唄戀情紫」 「孝女貞婦娜真都翳喜」	22：113	〃
11. 12. 27	二代目一九(紀山人改)「今様櫛」	22：120～121	〃
11. 12. 27	梅亭金鷲「東京漫遊独案内」	22：120～121	〃
11. 12. 27	文東陳人原稿、楚満人補綴「松風邑雨物語」	22：〃	〃
11. 12. 27	松亭金水「毬唄三人娘」「兩個女兒郭花笠」 <small>くるわのはながさ</small>	22：〃	〃
11. 12. 20	森鷗外「細木香以の傳」	22：118～119	〃
12. 1. 1	伊沢「蘭軒傳」	25：305	書簡集
12. 1. 28	「九州帝国大学新聞」	25：306	〃
12. 1. 10	條野採菊「中本春色江戸紫」	22：131	断腸亭日記第二十一
12. 1. 29	西村源六編「其角七部集」	22：135	〃
<sup>86)</sup> 12. 1. 不	広津柳浪「秋の色」	17：135～137	冬の蠅：郊外
<sup>86)</sup> 12. 1. 不	「文芸倶楽部」	17：137	〃：〃
12. 1. 16	松亭金水作、山々亭有人補綴「中本三人娘手鞠唄」	22：133	断腸亭日記第二十一
12. 1. 2	森銑三「勝間龍水の傳」	22：129	〃
12. 2. 22	「関八州名墓志」	22：140	〃
12. 3. 23	詠月堂甲太「尾花草紙」	22：148	〃
12. 3. 20	大橋乙羽編「紀行文集」(続帝国文庫 v. 21)	22：147	〃
12. 3. 24	「お艶ころし洲崎の事」	25：307	書簡集
12. 3. 24	仮名垣魯文「南陀迦紙乱」「蚯蚓遺跡」「出納簿記」「耄録」	22：149	断腸亭日記第二十一
12. 3. 19	岸上質軒編「東関紀行」(続帝国文庫 v. 38)	22：147	〃
12. 3. 23	金龍山人「吾妻の春雨」	22：148	〃
12. 3. 23	業亭行成「藪のうぐひす」	22：148	〃
12. 3. 2	為永春水「軒並娘八丈」	22：143	〃
12. 3. 5	為永春水「萩の枝折」	22：144	〃
12. 3. 23	為永春水「教訓図会及板下」	22：148	〃
12. 3. 9	近松門左衛門「心中萬年草」	22：145	〃
12. 3. 11	鼻山人「契情肝つぶし」	22：145	〃
12. 3. 23	鼻山人「恩愛二葉草」	22：148	〃
12. 3. 23	松亭金水「浜千鳥」	22：148	〃
12. 4. 13	「絵本東海道五十三次花の都路」	22：155	〃
12. 4. 3	河鍋晩斎筆絵巻一卷	22：153	〃
12. 4. 21	二代目一九「恋の若竹」	22：157	〃

(昭和)	読書作品(著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
12. 4. 22	二代目谷峨「春色連理の梅」	22：158	断腸亭日記第二十一
12. 4. 3	長谷川雪旦筆「諸国名所図会画稿」	22：153	〃
12. 4. 18	鼻山人「風流粹好傳」	22：157	〃
12. 4. 25	細井平洲の文集	22：159	〃
12. 4. 4	松亭金水「恋の花染」	22：153	〃
12. 5. 24	泉鏡花「兎園文家」	22：167	〃
12. 5. 13	大田南畝「壬戌紀行」	22：163	〃
12. 5. 30	小笠原長保「甲申族日記」	22：167	〃
12. 5. 5	岸上質軒編「続々紀行文集」(続帝国文庫 v. 38)	22：162	〃
12. 5. 25	清元梅吉 <sup>87)</sup>	22：167	〃
12. 5. 7	「花暦八笑人」	22：162	〃
12. 5. 22	二世為永春水「いろは文庫」	22：165	〃
12. 5. 4	「常陸帯」	22：162	〃
12. 5. 14	平井程一編「近世文芸名家伝記資料」(文 芸家懇話会雑誌)	22：164	〃
12. 5. 31	森鷗外「日誌」(岩波全集本)	22. 168	〃
12. 5. 15	Prévost, Abbé「Manon Lescaut」 <sup>88)</sup>	22：164	〃
12. 6. 28	「近藤正斎全集」	25：309	書簡集
12. 7. 9	江木写真店「東京風景写真帖」	22：188	断腸亭日記第二十一
12. 7. 9	為永春水著，英泉画「一休禅師笑訓法語」	22：188	〃
12. 7. 9	為永春水著，英泉画「絵本雑兵忠孝伝」	22：188	〃
12. 7. 9	堂島綱利亭主人著，北斎画「粹古伝初編」	22：188	〃
12. 7. 9	北畝藤花園「挿画稗史外題鑑」	22：188	〃
12. 7. 9	「明治風俗銅板画」	22：188	〃
12. 7. 3	榎山梓月「自選句集冬鶯」	22：184	〃
12. 7. 22	柳湾編著「詠茶詩集」	22：193	〃
12. 7. 9	「和合人」	22：188	〃
12. 7. 10	ロッチ，ピエール「吉原浅草の遊記」	22：190	〃
12. 7. 1	Galtier-Boissière, Jean「La Bonne Vie (Roman)」	22：184	〃
<sup>89)</sup> 12. 8. 不	英国人サー・アーノルドの漫遊記 <sup>90)</sup>	17：152	冬の蠅：西瓜
<sup>89)</sup> 12. 8. 不	英国公使フレザー夫人の著書 <sup>90)</sup>	17：152	〃：〃
<sup>89)</sup> 12. 8. 不	栗本鋤雲「門巷蕭條夜色悲。鵲鵲聲在月 前枝。誰憐孤帳寒檠下。白髮遺臣讀楚辭。」	17：154	〃：〃
<sup>91)</sup> 12. 1. 不	為永春水「春曉八幡佳年」 <sup>92)</sup>	17：131～3	〃：町中の月
<sup>89)</sup> 12. 8. 不	「楚辭」	17：153	〃：西瓜
<sup>89)</sup> 12. 8. 不	陶淵明「帰去来」	17：153	〃：〃
<sup>89)</sup> 12. 8. 不	森鷗外「礼儀小言」	17：149	〃：〃
12. 8. 11	森鷗外「智慧袋」 <sup>93)</sup>	22：197	断腸亭日記第二十一

(昭和)	読書作品 (著者・著作名)	巻：頁	荷風全集目次タイトル
12. 8. 15	森鷗外「鷗外全集心頭語」	22：199	断腸亭日記第二十一
<sup>89)</sup> 12. 8. 不	ハーン, ラフカディオ「怪談」 <sup>94)</sup>	17：152	冬の蠅：西瓜
12. 8. 22	ヴァレリイ, ポール「靈魂と舞踏」	22：200	断腸亭日記第二十一
<sup>89)</sup> 12. 8. 不	ロッチ, ピエール「お菊さん」 <sup>95, 96)</sup>	17：151	冬の蠅：西瓜
12. 8. 25	「Le Ballet au XIX <sup>e</sup> siècle (十九世紀劇場舞踊史)」 <sup>97)</sup>	22：201	断腸亭日記第二十一
12. 9. 19	雑誌「洞房語園」 <sup>98)</sup>	22：212	断腸亭日記巻第二十一の続
12. 9. 27	森鷗外「黄禍論梗概」	22：214	〃
12. 9. 17	ヴォルテール「カンヂード」	22：211	〃
12. 9. 30	Frappa, Jean-José「Enquête sur la Prostitution (巴里花街志)」 <sup>99)</sup>	22：214～215	〃
12. 9. 4	Suarès, André「Poète tragique」	22：204	断腸亭日記第二十一
12. 10. 15	秋庭太郎「明治演劇史」	22：219	断腸亭日記巻第二十一の続
12. 10. 24	市河三喜「長崎と米庵及び寛斎」	22：222	〃
12. 10. 2	「鼠璞十種」(国書刊行会本)	22：215	〃
12. 10. 23	ジョド著, 堀口大学翻訳「ソウリエット紀行」修正の一巻	22：222	〃
12. 10. 27	ミュッセの詩集	22：222	〃
10. 10. 28	ミュッセの詩「少女リュシィ」 <sup>100)</sup>	22：223	〃
10. 10. 8	Meersch, Maxence Van der「L'Elu」	22：217	〃
10. 10. 16	Meersch, Maxence Van der「L'Empreinte du Dieu」 <sup>101)</sup>	22：220	〃
12. 11. 28	中河与一「泉郷奇譚」「ゴルフ」	25：316	書簡集
12. 11. 19	堀口大学訳, オオドゥウの小説「マリイ」	22：227	断腸亭日記巻第二十一の続
12. 11. 10	森鷗外「むく鳥通信」	22：225	〃
12. 11. 20	ヴォルテールの小説	22：228	〃
12. 11. 7	モオロワ, アンドレエ雑筆集「Mes Songes que voici」	22：225	〃
12. 11. 7	レニエの小品 <sup>102)</sup>	22：225	〃
12. 12. 29	大田南畝の酒落本 <sup>103)</sup>	17：162	冬の蠅：浅草公園の興行物を見て
12. 12. 27	「オペラ台帳」 <sup>104)</sup>	22：236	断腸亭日記巻第二十一の続
12. 12. 19	佐藤春夫「むささびの冊子」	22：234	〃
12. 12. 29	山東京伝の黄表紙 <sup>105)</sup>	17：162	冬の蠅：浅草公園の興行物を見て
12. 12. 28	深谷三郎, 小説「昇天」	22：236	断腸亭日記巻第二十一の続
12. 12. 7	コレット「Les Vrilles de la Vigne」(散文詩集)	22：232	〃
12. 12. 23	シェロー, ガストン「TOI (汝)」	22：235	〃
12. 12. 5	レニエー「玉の杖」 <small>カンドジャスブ</small>	22：232	〃

## 注

- 1) 風俗画報社, 明治43年発行
- 2) 岩波書店編集部によりつけられたもの
- 3) 同巻 p. 314 には Quint と有り
- 4) 雑誌, 新趣味社発行, 第1号(大正2)
- 5) 自然主義者の中で, ドーデはその人間性, 理想性の故に, 日本における受容のはばは広い。
- 6) “N°132-133. La Musique contemporaine en France par René Dumesnil. N°106 Le Théâtre français contemporain par Edmond Sée. N° 94 La Cinématographie par Lucien Bull. N° 39 La Grande Guerre (1914-1918) par le Général Thévenet.”
- 7) 1926. Flammarion: Paris
- 8) 釣の雑誌, 河と海社刊
- 9) 岩波書店編集部によりつけられたもの
- 10) カルコは生涯, あきることなくモンマルトル, モンパルナスの風俗を追求した。荷風の銀座, 浅草の探求もそれに比することができよう。
- 11) “其文に曰く「人臣タル者帯剣ノ客ヲ聚メ, 必死ノ士ヲ養ヒ……」云々”
- 12) 同書名のもの長景東著の随筆と山東京伝作, 歌川豊国絵の合巻の2種有り。
- 13) 早稲田派に対抗して文学上, 三田派を固めることをわらう荷風ではあったが, 反自然主義文学の鬼才, 春夫にはずっと注目している。
- 14) “「文学」の中に, 傳中壽「日本明治文学中之自然主義」の一文有り。”
- 15) ロティの生涯は, 孤独と放浪の夢を託すべきものとして, 荷風の注目するところであった。
- 16) 荷風の『紅樓夢』の解釈が, 代表作『溇東綺譚』を成さしめる重要な要素となる。
- 17) “(梨花淡白柳深青。柳絮飛時花滿城。惆悵東欄一樹雪。人生看得幾清明。)
- 18) 発表は昭和25年10月。
- 19) ミュッセのおもかげが, 若い日の荷風の詩人観, 詩人像を作った役割は大きい。
- 20) “其宗徒の本山より刊行するもの”
- 21) バリの美, バリの知性, バリの青春を象徴する, 決して富裕ではないこの界限は, 荷風の知るバリとも重なる。
- 22) 十八歳の時, 荷風が師弟の礼を取ったこの作家の代表作は, 完成度は異なっても, 荷風の初期作品と重なってくる。
- 23) “大田南畝が其子倅を伴ひ御薬園の梅花を見て聯句を作った文”
- 24) 昭和9年11月稿。
- 25) 荷風文学のユーモアは, 冷酷な人生観察家一九からも文学史的な流れを引いている。
- 26) “17才の頃雑誌太陽第1号を読む”
- 27) “中村敬宇(正直)訳『西国立志編』”
- 28) 昭和9年12月稿。
- 29) 岡鬼太郎の江戸の街, 江戸の人々を描く眼の確かさは, 荷風の敬服するところであった。
- 30) “『文芸倶楽部』増刊号(明治35年)所載”
- 31) “岡氏の花柳小説中には, ドーデ, モーパッサン等の集に見るが如き余情脈々たる幾多の好短篇がある”
- 32) “岡鬼太郎の花柳小説を読んで, ポルト・リッシュの戯曲中の傑作を連想。”
- 33) “suivi de 5 récits d'écrivains japonais contemporains, Traduction de Serge Elisséef: Au Sans Pareil, 37, Avenue Kléber Paris (1927)”
- 34) 自己のこの小品の洗練された趣きは, エリセーエフの翻訳によく活きていると荷風は感じている。
- 35) “「はや悲し吉原いでて麦ばたけ」, 「吉原へ矢先そろへて案山子かな」”
- 36) “「注文帳」が出た”
- 37) “木場の町の堀割のあたりを読んだ文章, 誰れの文章か不明”

- 38) “亡友A氏、深川夜鳥という別号を置した大久保長屋の事を書いた文”
- 39) “木場の町の堀割のあたりを読んだ文章、誰れの文章か不明”
- 40) “報知新聞明治23年の紙上に連載”
- 41) 岡倉書房発行。
- 42) “随筆集「冬の蠅」はこの句からとった”
- 43) “仏訳本”
- 44) “浅草寺寺内梅園院住職徳含號圓禪詩集”
- 45) “佐藤春夫訳”
- 46) 荷風の人生に対処する仕方が、この作品にある。鯉丈の分身の八笑人にならい、荷風は若い時代に『冷笑』において数人の分身を創った。
- 47) “魯迅訳豎琴，何家槐作曖昧，巴金作雨，魯迅訳一天的工作，張天翼作一年，蓮子作剪影集，丁玲作母親，老舍作離婚，施蛰存作善女人行品，沈從文作記丁玲，鄭振鐸作歐行日記，靳以作蟲蝕，茅盾作話匣子。”
- 48) “『文芸倶楽部』第7巻12号所載”
- 49) “大町桂月が楠正成の自殺を論ずる文あり”
- 50) “生田葵山余が青年の頃の私行を書きつづりて「文芸春秋」の誌上に載す。”
- 51) “永井荷風論所載”
- 52) “明治22・3年頃の雑誌「頓智会雑誌」10冊ばかり開き見るに宮武外骨の編輯する処、小林清親のポンチ絵もあり、外骨氏重禁固3年の刑に処せられたる記事もあり。”
- 53) 天保十年頃刊本。
- 54) “婦人公論新聞広告の中に、女性文化二十年と題するものあり。他日参考の資料となるべし。”
- 55) “London: Hutchinson & Co. 1899”
- 56) “Paris: Hachette et C<sup>ie</sup>, 1866”
- 57) “神田鍛冶町大学館発行”
- 58) “William Blackwood and Sons, London, 1859”
- 59) “明治23年頃の版也”
- 60) “明治11年刊行太政官少書記官久米邦武編纂，銀座4丁目博聞社版”
- 61) ヴェルレーヌの音楽性は、日本においてつとによく理解されたが、そのデカダンスの美は、現在にいたるまで、あまりよく理解されていない。荷風は数少ない理解者の一人である。
- 62) “数年前「改造」は張学良の名を濫用して雑誌を売りたることあり”
- 63) “巴里発行，186，70年頃のもの”
- 64) “数年前「中央公論」は蔣介石の名を濫用して雑誌を売りたることあり”
- 65) “巴里アシュット社出版，1868年合本第2冊中，日本風俗に関する記事は，1863年より4年迄江戸及横浜に駐割せし瑞西聯邦全權公使 Aimé Humbert 著ところ Le Hondjo-Arts et métiers Récréations et coutumes domestiques-Solennités domestiques-Les Matsouris-Les fêtes du calendrier の数章あり。”
- 66) “Promenado Autour du monde 1871 par M. le Baron de Hübner, ancien ambassadeur, ancien ministre, auteur de Sixte-Quint, Librairie Hachette et C<sup>ie</sup> Paris, 1877”
- 67) “Croquis Japonais. par G. Bigot, 1886, Tokio”
- 68) “London, 1863, 英国公使アルコックの江戸滞在記”
- 69) 2冊，明治17年刊。
- 70) “絵本は巡査の一日正月風俗漫画二種等全部にて金壱千円なりと云ふ。”
- 71) “仏蘭西の古雑誌”
- 72) “過日読残したるサマソンの傳を繙く”
- 73) 昭和11年3月稿。
- 74) 昭和11年4月稿。



- 75) ハーンとロティを対にして、荷風はよく見る。前者は英文により、後者は仏文により、日本を紹介した各々の代表者とみなしている。
- 76) “Scribner’s Sons, 1891”
- 77) “Longmans Green and Co. 1891”
- 78) “Larousse, 1915”
- 79) “この誌上に於て、甚しく余が事を誹謗したり”
- 80) “天保9年板”
- 81) “寄贈雑誌、大概緘封のまま屑屋に売る雑誌”
- 82) “来月の号には先代左団次追善記念の俳句其他の記事を満載すべしとして拙稿を需められる。”
- 83) “短編小説集、改造社、書中私生児と題する一小篇は氏の出生実歴を述べたるもの。”
- 84) “全集に収められたる雲中語其他当時の小説批評を読む。”
- 85) “著者が鷗外先生を上野博物館に訪問したる記事あり”
- 86) 昭和10年12月稿。
- 87) “清元梅吉其父二世梅吉の伝を著し一部を贈らる”
- 88) 昭和10年代にみられる「日かげの花」などの荷風の古風な告白体の作品の形のもっとも完成した原型がここにある。
- 89) 昭和12年4月稿。
- 90) “共に明治22,3年のころの日本の面影を窺はしめる”
- 91) 昭和10年冬稿。
- 92) “対話の間に歴々として能くその情景を現していることは、さすがに老練の筆と云はなくてはならない”
- 93) “『鷗外全集』第18巻随筆所載”
- 94) “それ等は、いづれも東京のむかしを思い起させるからである”
- 95) “ロッチの著作は、わたくしが幼年のころに見覚えた過去の時代の懐しき記念である”
- 96) 『お菊さん』の『湊東綺譚』への影響は、つとに明白である。
- 97) “Editions de la N. R. F. 1921”
- 98) 「目次左の如し」として、内容を示してある。
- 99) “Flammarion, Editeur, 1937”
- 100) “『少女リュシイ』の一篇を訳す”
- 101) “Roman, Prix Goncourt, 1936”
- 102) “レニエの小品一篇を訳す”
- 103) “オペラ館的一幕物を見る興味は、南畝の洒落本をよむ興味に似ている”
- 104) “余が外遊中合本にしたるオペラ台帳の中の一冊”
- 105) “オペラ館的一幕物を見る興味は、京伝の黄表紙をよむ興味に似ている”